

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

「五十回忌を迎えるにあたって」
慈光照護のもと、門信徒のみなさまには心静かに新年を迎えられたことと思います。

昨年もまた各地で台風や大雨の被害がありました。千葉県での停電や長野での北陸新幹線の水没やリンゴの被害などはテレビで見てたいへんショックを受けました。もし西光寺がこんな被害に遭ったらと考えるだけで、目の前が真っ暗になります。また、十月の終わりには首里城が火災になりました。多くの人々の協力で英知で再建されたのにあっけなく燃えてしまい、まさに無常の世を知らされました。被害に遭われたみなさまには衷心よりお見舞い申し上げます。

今年の年賀状は、五十回忌を迎える前々任職(住職の祖父)と七回忌を迎える前任職(住職の父)と任職の三世代コラボの絵を入れてみました。郷土玩具の蒐集家だった祖父がこんなスケッチを残していました。当時の年賀状にでも使ったのでしょうか?父の巾着ねずみは前の子年の年賀状のもので



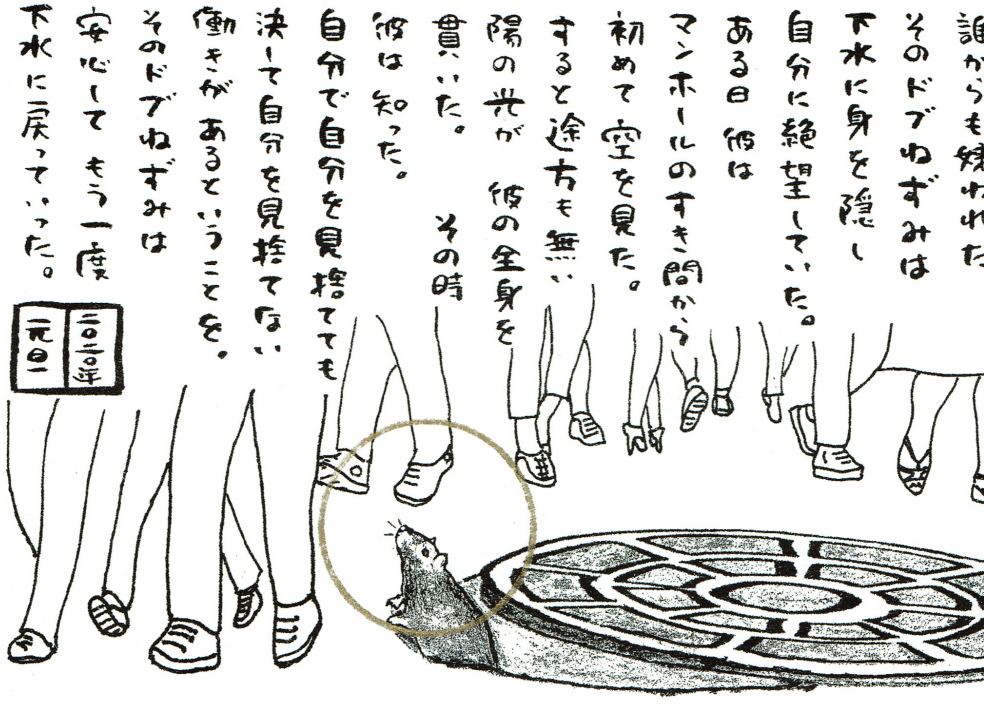
す。私(住職)は特に絵を描く趣味はないので、遺伝子は薄まっているのだなあと感じます。住職の妹はグラフィックデザインをしておりますので、美術系の遺伝子はそっちに行っただんだと思います。

祖父は郷土玩具の世界ではそれなりに名が知られていて、いろいろ研究したことを関係の書籍などにも執筆していたようですし、父はお寺や阪北組の会計などをしていても、相当几帳面で、ここまでするか?と思えるほど関係書類や領収書なども完璧に保管していました。ところが現任職はずばらを絵に描いたような性格で、大事なこともすぐに忘れ、片づけは全然できません。いったい誰に似たのでしょうか。

その道では結構活躍した祖父も、五十回忌ともなると覚えていない方もご門徒さんや親戚以外にはほとんどいないと思います。七五〇回忌とかのようにとんでもなく続く親鸞さまのような特別な方以外では五十回忌が年忌法要の(現実的な)最後の締め括りです。五十年というのはそれほど長い期間なのだということをしみじみ感じます。五月二十三日の法要には、浄土真宗のみ教えをいただく家に生まれ(または嫁に来て)、西光寺の門信徒となられたご縁を大切にしてください、ご参拝いただければと思います。遠方の方、ご都合が悪い方は無理はなさらないでくださいね。まだ法要の詳細については何も決まらずに悩んでいます。私のことですからきつとぎりぎりまで悩むと思いますが、なんとか責任を持って執り行わせていただく所存です。

今年も昨年に引き続き、広島ふくまぎちやうの福間義朝先生からの年賀状をお味わいください。

為作大安



誰からも嫌われた
そのドブねずみは
下水に身を隠し
自分に絶望していた。
ある日彼は
マンホールのすき間から
初めて空を見た。
すると途方も無い
陽の光が 彼の全身を
照らした。 その時
彼は知った。
自分で自分を見捨てても
決して自分を見捨てない
働きがあるという存在。
そのドブねずみは
安心してもう一度
下水に潜っていった。

二〇二〇年
二月一日

このドブねずみは私です。そして下水が娑婆世界です。先生の年賀状を読むと、ドブ

ネズミでもよかつたな〜と思わされます。十年前に先生とブータンに旅したときに、殺虫剤（という概念すら）がなく、虫たちがありのままに生きられるブータンの純粹さに感銘を受けました。一緒に行ったご門徒さまが感想発表のときに、「ハエに生まれてきてもいいと思いました」とおっしゃったことが今でも忘れられません。私は下水の中でもがきながら生きていますが、阿弥陀如来は決して私を見捨てることのないことを聞かせていただき、ドブネズミみたいに美しく生きていきたいと思えます。

※福間先生は二〇〇八年に京都の伝道院の実習生を連れて、西光寺でご法話してくださいました。また、先日の御正忌でもビデオで先生のご法話を聴聞させていただきました。

※『**為作大安**』……佛説無量寿經に『吾誓得佛 普行此願 一切恐懼 為作大安』（わたしは誓う。自分が仏になったときには、あまねくこの願いを実現して、すべての恐れおののく者たちに、大いなる平安をもたらそう。）とある阿弥陀如来のお誓いの言葉からです。

「年賀状について」

今年もご門徒のみなさまから年賀状をい

いただきましたが、寺からの年賀状は失礼させていただきます。どうかご理解いただき、今後は送ってくださらなくて結構かと存じます。

「昨年もお育ていただきました」

坊さんの世界では、「お育ていただきました」という感謝の言葉をよく使います。昨年も門信徒のみなさまからいろいろ教えていただいたり、お野菜やおかず、お漬物などをたくさん頂戴いたしました。文字通りみなさまにお育ていただいております。住職・主夫・介護士を兼任している私にはたいへん有り難いことです。その都度お礼を申し上げているつもりですが、改めて紙面からですがお礼を申し上げたいと思えます。

「いろいろご連絡」

・赤い変な傘ありませんでした？

物好きな住職は、反対方向に開く変な赤い傘を持っていました。自分が仏になったときにもお宅にお参りしたときに忘れたのかもしれない。もし赤い変な傘がありましたらお知らせください。

・今年PR号がありません。

関係のみなさますみません🙏。

住職携帯 090-8967-7902

メール soichiro4989@gmail.com
ブログ 西光寺で最高時！